

高エネルギー加速器セミナーOHO '23 2023年9月5日~8日、KEKつくば&テレビ会議

中性子生成ターゲット

### 原田 正英

JAEA, J-PARCセンター、物質・生命科学ディビジョン、 中性子源セクション



- ▶ はじめに
- 中性子生成と中性子源施設
- ▶ J-PARC核破砕中性子源
- ▶ 粒子輸送シミュレーション
- ▶ 実測や実例
- ▶最適化
- ▶ まとめ

はじめに

- 中性子をプローブにする物質科学研究や生命科学研究は、 強度重視の科学とも言われ、中性子源には、高い中性子強 度を求められる。
- 中性子を生成する方法は様々あるが、大強度でパルス状を 目指すなら、加速した陽子ビームを利用し、核破砕反応を利 用した核破砕中性子源を用いることが多い。陽子ビーム出力 に大きく依存するが、安全上の設備が必要であるため、利得 が低くなる傾向にある。一方で、中性子源構成の最適化と適 切な工学設計により、中性子強度を大きく回復することがで きる。
- 本講義では、J-PARC核破砕中性子源を主として、陽子ビーム 入射から中性子ビーム供給までの中性子生成過程を説明し、 実際上のJ-PARCの核破砕中性子源を例にその説明を行う。

## 中性子とは

- ▶ 中性子
  - **質量:** 1.67x10<sup>-24</sup>g
  - 電荷: 0
    スピン: 1/2
- - エネルギー(En):eV 1eV=1.602E-19 J
  - ▶ 波長( $\lambda$ ):Å(10<sup>-10</sup>m)  $\lambda$ (Å)=9.044•En<sup>-1/2</sup>
- エネルギーによる中性子の呼び方
  - ▶ 高速中性子 keV~MeV
  - > **熱外中性子** >0.3eV
  - 熱中性子 5~30meV
  - ▶ 冷中性子 0.1~5meV
  - ▶ 極冷中性子 0.5~100 μ eV
  - ▶ 超冷中性子 <0.5µeV

- ・ 中性子は、電荷を持っていないため、
   原子核と容易に相互作業を起こす。
- 中性子は、陽子と同程度の質量を 持っているので、物質内での状態により、 影響を受けやすい。
- 中性子を使えば、エネルギーと運動量の変化から、非破壊で、物質の内部の構造を観測できる。



### 中性子の検出

- ・中性子は非荷電粒子なので、検出が困難。
- ・中性子との反応する確率(反応断面積)が大きく、荷電粒子を発生する反応を利用する。
  - ► He-3 (n,p) H-3 Q=0.765MeV
  - ▶ Li-6(n,H-3)He-4 Q=4.78MeV
  - ▶  $B-10(n, \alpha)$  Li-7 Q=2.792(6%), 2.310MeV(94%)



### 運動エネルギーを測定するために ~飛行時間法~

- ・中性子は、電荷をもたないため、エネルギーの測定が 困難
- ・運動エネルギーは、速度の二乗に比例する。
   E=1/2mV<sup>2</sup>
- ・既知の距離で、中性子が発生して中性子が観測されるまでの時間を測定することで、速度を測定し、運動 エネルギーに換算する。



## 高性能な中性子源とは?

〇良好なパルス特性

- ▶ 強度が強い
- ▶幅が短い
- テールが小さい





▶ パルス化

バックグランドが少ない

時間

### 中性子を放出する核反応



## 典型的な中性子反応とエネルギーコスト

名称	反応	中性子収量	中性子生成に必要なエ
			ネルギー
Cf-252 線源	放射性同位体	3. $8 \times 10^{9}$ /GBq	-
Ab-Be 線源	放射性同位体	$6 \times 10^4$ /GBq	-
電子線加速器中性子源	光核反応	1. 7×10 <sup>-2</sup> /e−	2 GeV
(タングステン)			
DT 中性子源	核融合反応	$3 \times 10^{-5}$ /d	10 GeV
Be (p, n)	核反応(交換反応)	1.6×10⁻³/p	4 GeV
U-235 核分裂炉	核分裂反応	2.3/fis.	180 MeV
陽子ビーム入射(水銀)	核破砕反応	80/p	38 MeV

Table 2-1、典型的な中性子反応と中性子収量、エネルギーコスト

## 典型的な中性子スペクトル



使いたいエネルギー範囲はIeV以下

### 世界の中性子源と実効熱中性子束



原子炉中性子源から加速器中性子源へ

### 世界の中性子生成ターゲット















Reflector Cold Moderato

Thermal Moderate

陽子ビームエネルギーと生成効率



I.3GeVあたりが最も効率が良いと言われている



Table 2-2、2MeV から 0.025eV までの衝突回 数[7]

名称	衝突回数
Н	18.2
H <sub>2</sub> O	19.8
D	25.1
D20	35.8
Be	87.1
С	115
0	152
Fe	510
U	2172





# Japan Proton Accelerator Research Complex (J-PARC)

### 3GeV, IMW & 25Hz



### 中性子源の構成

- ▶ 水銀ターゲット
  - ▶ 中性子を発生させる
- ▶ ベリリウム&鉄反射体
  - ▶ 中性子をかき集める
  - ▶ 中性子を減速させる
- ▶ 液体水素モデレータ
  - ▶ 中性子を減速させる
  - > 中性子を放出する
- ▶ デカップラー材
  - ▶ (遅い)中性子を吸収する
  - ▶ モデレータとそれ以外を仕切るように設置する。
- ▶ ポイズン材
  - ▶ (遅い)中性子を吸収する
  - ▶ モデレータの中に入れて実効的にモデレータの幅を短くする。
- ▶ 遮蔽体
  - 中性子など放射線を漏らさない
- > シャッター
  - 中性子の供給・遮断する。

## 中性子源構成(J-PARC核破砕中性子源)





中性子源施設全体

低温設備





中性子実験装置



## 中性子実験装置の配置



中性子は基本曲がらない (ミラーや重力では曲がるが) なので、放射状に装置を配置する



## 計算モデルと計算パラメータ

### 3 D view of JSNS design



Item	Calculation condition		
Destan Deam			
Proton Beam	1MW at the grater been window		
Power	5000 hours / user		
Operation time			
D ("1	Emittance : 81 $\pi$ mm mrad		
Profile	Gaussian + Uniform		
	Footprint : $180 \times 70 \text{ mm}^2$		
Repetation rate	25Hz		
Proton Beam window			
Material & thickness	Al-alloy (A5083), 2.5mm <sup>t</sup> x 2 plates		
Coolant	H <sub>2</sub> O		
Target			
Material, density	Mercury, 13.6 g/cm <sup>3</sup>		
Vessel material	316L stainless steel		
Coolant	D <sub>2</sub> O		
Moderator			
)	Coupled (CM) 1		
Type & number →	Decoupled (DM) 1		
	Decoupled Poisoned (PM) 1		
Material property	Super-critical hydrogen, 20K,		
material property	1.5MPa,0.07g/cm <sup>3</sup>		
Vessel material	Al-alloy (A6061, A5083)		
Coolant	H <sub>2</sub> O		
Reflector			
Material & size (Inner)	Beryllium, 50 cm (Dia.) x 100 cm (Hei.)		
Material & size (Outer)	Iron, 100 cm (Dia.) x 100 cm (Hei.)		
Coolant material., fraction	D <sub>2</sub> O, about 10% (channel width: 5mm)		
Vessel material	Al-alloy (A5083)		
Water-cooled shield			
Material	304 stainless steel		
Coolant material, fraction	$H_2O$ , about 10%		
Air-cooled shield			
Material	Steel		
Coolant material	Air		
Neutron beam line			
Number	23		

## 中性子パルスデータの計算結果



中性子の測定例



Counting detectors 1/2 inch He-3 detector (Eff~1) He-3 monitor (Eff:10<sup>-1</sup>,10<sup>-2</sup>,10<sup>-3</sup>,10<sup>-4</sup>,10<sup>-5</sup>)



Beam stop

Neutron beam entrance

最初の中性子ビームの観測のために

## First direct beam was measured by CTOF method at the sample position at BLI0.

CTOF: Current Time of Flight



### On May 30, 2008

## 最初の中性子ビーム



Only 1 shot !

## 中性子束のシミュレーションと実測



20%の精度で よい一致を示す。

高エネルギー中性子



Figure 11: Neutron energy dependence of each reaction rate.



- Sample: mica and diamond
- The detector was located at 170°







**Fig. 3.** Pulse width at half and 1 % maximum of observed mes of DM of JSNS.

### Good agreement

**Fig. 1.** Example of pulse shapes of the cold neutrons. Bragg peaks of (004) and (008) of mica are represented.

**Fig. 2.** Example of pulse shapes of the thermal and epithermal neutrons. Bragg peaks of (440) and (10 10 0) of diamond are extracted.

中性子スペクトル



Good agreement within 20%





Figure 9: Measured and calculated brightness at BL10.

We could observe the spatial distribution.

### 金箔による中性子絶対強度測定(陽子ビーム強 度依存性)

- IMW operation for 10 hours on July 3 was successful.
- A July  $_{500kW}$  operation is  $_{13.4m}$ At sample position (13.4m)  $_{2.5 \ 10^6}$ RI\_10 (Noboru) with  $_{2.5 \ 10^6}$  $_{2.5 \ 10^6}$ 

  - Good agreement
  - At IMW operation with no collimator,  $4.7 \times 10^7$  n/cm<sup>2</sup>/s will be archived.



遅発中性子



There events were confirmed as neutron detections from the pulse height data

These events ?
1, Delayed neutrons
2,The (γ,n) rection
ex. <sup>9</sup>Be+γ→<sup>8</sup>Be+n-1.666MeV

 $f0(t)=95.749*(1/2)^{(t/6.5381)}$   $f1(t)=172.06*(1/2)^{(t/134.41)}$  $f2(t)=28.811*(1/2)^{(t/4217.2)}$ 

### 核発熱計算と 放射線損傷計算



### 放射化計算(残留放射能及び線量分布計算)



遮蔽計算 (バルク遮蔽)



## 遮蔽計算 (ビームライン)



z (cm)



急激に発熱することで、圧力波が発生し、 そこから負圧(キャビテーション)が発生して、 水銀のマイクロジェットが容器壁面に 損傷を与える。

SNSの事例

### J-PARCでの対策



Side cross-sectional view

Furse 4
Original design
Per = S1 W
Per = 3750 MWh
Original design

#### J-PARCでの事例



Top view

遠隔操作機器

▶ パワーマニュピュレーター



容器先端部分で1000Sv/h以上の線量があるので、交換は遠隔操作が主。



### 中性子強度の ターゲットの大きさと材質依存性



### 中性子強度の 減速材サイズ依存性





### 最適化(簡素化モデルと詳細モデルの違い)

エネルギースペクトル パルス形状 10<sup>17</sup> Decoupled poisoned moderator 10<sup>15</sup> E<sub>n</sub> = 20 me∨ neutron intensity (n/cm<sup>2</sup>/s/sr/eV/MVV) Neutron intensity (n/cm<sup>2</sup>/s/sr/e//pulse) 10<sup>16</sup> 10<sup>14</sup> 10<sup>13</sup> 10<sup>15</sup> 10<sup>12</sup> Engineering model 10<sup>14</sup> 10<sup>11</sup> 10 10 Thermal Mod. (Full model) 10<sup>13</sup> Thermal Mod. (Simple model) Improved 10<sup>9</sup> Simple model engineering model 10 10 10<sup>°</sup> 10  $10^{2}$ 10 10 10<sup>12</sup> E nergy(eV) 50 100 150 0 T<sub>op</sub> (hr)

### まとめ

物質科学研究や生命科学研究で有効なプローブである 中性子を使用する中性子施設は、小型化されているX線 装置や大強度・高輝度化が期待できる放射光施設と比 べ、追いつけない部分がある。それでも、強力なツール となるように中性子生成に関する技術開発が進められて いる。国内外の施設では、新規の核破砕中性子源の計 画や建設が進められている。また、国内で新たな研究炉 の設置計画が立ち上がっている。これらが中性子科学 の未来を作っていくものである。